

宮坂建設工業が緊急安全大会を開く

安全に対する意識改革を

労災等根絶へ決意新たに

【帯広発】宮坂建設工業（株）（帯広、宮坂寿文社長）は十九日と二十一日、本社と札幌支社における緊急安全大会をそれぞれ開催した。あいさつに立った宮坂社長は、安全に対する意識改革を行った上で、今後の作業に当たるよう要請。参加者は、労働災害等の根絶に向けて決意を新たに示した。

同大会は、これから酷暑での工事最盛期を迎える中、不安全行動に起因する事故防止や健康管理の徹底、綿密な作業計画の立案および作業手順の順守に向けて緊急で開催したもの。

冒頭のあいさつで宮坂社長は「自分の身は自分で守る」という意識を徹底してほしい。また、異変を感じて危ないと思ったら、すぐに作業を止めて点検してほしい」と要請。その上で、現場運営、安全に対する意識改革を行い、今後の作業に当たるよう求めた。

続いて、棟方聡土木部長が安全衛生活動について工種別に指示。重機作業、土砂運搬作業、急峻な法面での作業時における事故防止のポイントを紹介した。

このほか、高所・低所からの墜落・転落防止対策、車両系建設機械災害と防止

平成29年度 宮坂建設工業株式会社 緊急安全大会



工事が本格化する中、参加者の安全意識の高揚を図った

どにふれた上で、有事の際には、地域住民の安全確保を図るため、参加者の協力が必要不可欠であることを訴えた。

最後に、参加者全員でシユプレヒコールを実施。参加者たちは、より一層の予防安全と危険予知などにより、労働災害の発生を防止していくことを誓った。

高道伸専務は「自然災害対応」について説明。全国各地で頻発する自然災害な

工事最盛期に注意を喚起

宮坂建設工業
緊急安全大会

【帯広発】宮坂建設工業（本社・帯広）は19日、帯広市内のどかち館で緊急安全大会を開いた。写真。協力会社を含め250人が参加。全ての工事が酷暑の中で最盛期を迎えることから、労働災害の発生防止に向けて、不安全行動、熱中症の防止や、作業手順の順守を再確認した。

札幌支社は21日に札幌市内で開催し180人が参加した。

宮坂寿文社長は「自分の身は自分で守る」という意識を作業員に周知した。

てほしい。また人の様子をみておかしいと心配を感じたら作業を止め点検するよう声を掛けるように」と参加者に要請した。



各部長からは、現場の安全衛生活動について具体的な指示が伝えられた。高道伸専務は自然災害発生に備えて常に資機材を準備している体制に理解と協力を求めた。

最後に参加者全員で「頑張るぞ」とシユプレヒコールを唱和し無事故無災害を誓った。

安全大会

◆宮坂建設工業（帯広市、宮坂寿文社長）の緊急安全大会

19日、帯広市内のどかち館で開かれた。同社や災害防止協議会加盟企業の社員ら約250人が参加した。暑い日が続く中で工事が最盛期を迎えることから、労働災害の発生防止を図るために開催した。

宮坂社長は「道内の建設業では1月から6月までの半年で8件の死亡災害が発生した。自分の身は自分で守る意識を持つこと、人の様子を見て危ないと感じたら声を掛けるなどして、無



事故・無災害で頑張ろう」と大会趣旨を説明。写真。夏季熱中症対策や安全指導講話を行った後、「頑張るぞ」のシユプレヒコールを全員で唱和して閉会した。